

空気調和・衛生工学会東北支部 第8回学術・技術報告会

特別セッション（オーガナイズドセッション）：再生可能エネルギー先駆けの地・福島の実状と展望

2011年3月の東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故により、エネルギー政策、失われた産業と雇用の創出などを行わざるを得なくなった。

福島県は、「再生可能エネルギー先駆けの地アクションプラン（第2期）」で、2040年頃を目途に県内のエネルギー需要量100%以上に相当する量を再生可能エネルギーで生み出すことを目標にしている。浮体式洋上発電事業の実証研究や温泉バイナリー発電の導入支援、木質バイオマスや生ごみを利用したバイオガス発電の事業化や導入支援等を掲げている。

再生可能エネルギー先駆けの地・福島を目指している福島県の実状と展望を紹介する。

主催 空気調和・衛生工学会東北支部

日時 平成31年3月13日（水） 15時30分～16時30分

会場 東北大学川内北キャンパス講義棟

プログラム 司会：福島大学 赤井 仁志（事業・調査委員会委員長）

講演 「再生可能エネルギー先駆けの地を目指して

・・・ふくしまで進む産学官連携による再エネ関連産業の集積」

福島県産業振興センター エネルギー・エージェンシーふくしま 服部 靖弘